

特集

18歳はこう思う!



高校生 女と男の本音トーク!

今回は、足利南高等学校を訪問し間もなく社会に羽ばたく三年生が、男女共同参画についてどのような考えを持っているのか、お話を伺ってきました。

「男は男らしく女は女らしく」と言われたことある?

男1 ● 4人兄弟の末っ子ですが、言われたことはありません。でも、「男らしく」なんて良いと思います。
女1 ● 親に言われたことはありませんが、人それぞれだと思います。ただし、家の外では女の子らしくしようと心がけています。
女2 ● 「女の子なのだから家事をしなさい」と言われたことがあります。自分は、人それぞれだと思っているので、嫌な気持ちになりました。
男2 ● 特に言われたことはないですが、「らしさ」は時と場合に応じて必要なのだと思います。
男3 ● 「男は男らしく、女は女らしく」は普通の事だと思います。「らしさ」があって良いと思います。
女3 ● 男子の多い環境で育ったこともあってか、「女の子らしく」と言われることがあります。とても嫌な気持ちになります。限度はあるでしょうが、「男っぽい女の子」は個性だと思います。

「男らしくいか、女らしく」と感じる人はどんな人?

女3 ● いざという時に友達思いの行動ができる人は男らしい人。気遣いができる人は女らしい人だと思います。
男3 ● 見た目が大事だと思います。
男2 ● 今、具体的には浮かびませんが、思うところがあります。
女2 ● 宅配業のアルバイトを経験したことがあります。自分が持てない重い荷物を運んでくれる人は男らしく、メール便の入力など細かい作業を行う人は女らしいと思います。
女1 ● 「女らしく」とは、やはり気遣いができる人だと思います。また仕事や外見も大切だと思います。
男1 ● 男女とも、何事にも余裕をもっていられる人については、そう感じます。

「男らしく、女らしく」NG言葉に感じる男の子は?

女3 ● 自分自身に向かって言われるのは嫌ですね。
男3 ● 価値観としては、あって良いとは思いますが。
男2 ● 他人から言われるのは嫌ですが、自分で意識して「らしく」するのは大切だと思います。
女2 ● 基本的に女の子は「字」が綺麗であるべきだと思います。自分も周囲から注意されたら意識して直したいです。
女1 ● 見た目は大切だと思う。学校ではあまり意識しませんが、外出時には注意しています。

男1 ● 外見ではなく心を成長させるべきだと思います。成長することで自然に「らしさ」が醸成され、あるべき姿に磨かれると思います。

「男は仕事、女は家庭」この考え方はどう思う?

男1 ● 古い考え方だと思います。女性が担える仕事は増えており、自分は仕事優先で考えるべきだと思います。
女1 ● 自分は共働き家庭なので、父親も家事を手伝っています。今は「イクメン」という言葉が流行っていますが、当たり前なことだと思います。
女2 ● 自分のところも共働きで、両親のうち早く帰宅した方が家事をしています。父親は料理も上手です。自分は結婚しても仕事は続けたいので、家事の出来ない男子はNGですね(笑)



(左から) 柴崎さん、太田さん、加藤さん

男2 ● 昔の考え方でしよう。色々な家庭環境があり、男女ともに仕事も家事もこなしているはず。どちらもそれぞれで出来るのが良いと思います。
男3 ● 自分は音楽が大好きなのですが、ガールズバンドなどで女の子が楽器を演奏している姿はとても格好いい。女の子も仕事で他者を喜ばせることができるし、そうするべきではないか?
女3 ● 自分も共働き家庭ですが「こつあるべき」という固定観念は嫌です。個人的には自分を養ってくれる力があるなら家庭に入りたい。お互いに納得できるのであれば良いのでは?

食事や子どもの世話、お互いがやるべきと思う?

男1 ● 男女のどちらかというのではなく、お互いが支えあうべきだと思います。
女1 ● 役割はあるのかもしれませんが、支えあうべきです。
女2 ● 基本的には女の子だと思いますが、でも、あえて決める必要はないと思います。
男2 ● 二者択一すべきではないと思います。助け合って分担すべきでしょう。
男3 ● できる方がやるべき。でも、基本的には女性がメインだと思います。
女3 ● やはりできる方がやるべきだと思います。家事は平等に分担すべきであり、自分は家事ができる人と結婚したいです。



「イクメン」ってどう思う?

男1 ● 自分は「イクメン」になりたいです。
女1 ● 私は否定しませんが、子どもは自分がメインで世話をしたいと考えています。
女2 ● 「イクメン」は良いですね。でも、何でもやって欲しい訳ではなく、できることを一所懸命にやってくればそれで良いです。
男2 ● そういつかつづつになりたいと思っています。奥さんには負担をかけたくないです。
男3 ● 自分は子どもの相手をするのが苦手なので、働くことで貢献したいです。でも、「イクメン」は否定しません。
女3 ● 特に「イクメン」になって欲しい訳ではありませんが、「仕事が忙しいから…」という態度を取る男性は嫌いです。

今回の取材を受けて感じたことは?

男1 ● 女性は「イクメン」が好きなんだと再認識しました。自分も目指したいです。(笑)
女1 ● 今回の意見交換を通じても自分の信念は変わりませんでした。自分を再認識しました。
女2 ● 自分と違う意見もあることに改めて気が付きました。他人の考え方を受け入れることも大切なんだと思いました。
男2 ● 女の子の意見を聞いて、気遣いのできる「男」になろうと思いました。



(左から) 中村さん、小林さん、齋藤さん

男3 ● 互いの意見が違っていても良いと思います。でも、自分の考え方は変わりません。
女3 ● 考え方は変わりませんでした。やはり「イクメン」が良いです(笑)

相手の事を思い、自分を成長させるという良い意見がたくさんありました。そんなふうにもっと素敵に、もっと輝いてもらえたら嬉しいです。高校生の皆さん、ありがとうございました。

「イクメン」…子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のこと。または、将来そんな人生を送ろうと考えている男性のこと。

- インタビュー 6月13日(金)
- 参加者(2頁上の写真より)
- (後列右から) 加藤 優さん
- 太田翔太さん 中村竜也さん
- (前列右から) 齋藤里帆さん
- 柴崎俊里さん 小林珠菜さん